



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2009/08/13(木)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 55

中体連全道予選の観戦記をジュニアバスケットボール連盟の秀島理事長が投稿してくれましたので掲載します。

「2009年 北海道中学校バスケットボール大会を観戦して」

北海道ジュニアバスケットボール連盟 理事長 秀島 起也

今年度の中学生の頂点を決める、北海道中学校バスケットボール大会が8月3～5日にかけて、中学生憧れの札幌「きたえーる」で開催されました。

北海道ジュニア連盟としては、2年前より「北海道カップ」を創設し、他ブロックの強豪チームを招聘し、上位チームの強化を図ってきました。今回の優勝チーム男女とも、この「北海道カップ」で揉まれてきたチームであり、強化に繋がる事業を推進してきた本連盟としては、嬉しいところでもあります。今回は、男子 帯広緑園、女子 札幌清田が優勝して幕を閉じました。

男子優勝チーム帯広緑園は、今大会最もバランスのとれたチームとあって良いでしょう。ガード、シューター、センターが揃いどこからも点数が取れるチームでした。久朗津先生のベンチワークも落ち着いて的確であり、絶えず勉強してきた成果が花開き、安心して見ていられました。順当な優勝でしょう。数年前、久朗津先生にゲームの流れを変える方法として、「ディフェンスをチェンジすることで変える方法を考えている人は多いけれど、オフェンスで変えようと考えている人は少ない」と話をしたことを思い出します。彼は、そのことを重く受け、その点についてじっくり考えていたことを後日知りました。「感じ取る」この姿勢が、指導者として大切なことなのです。研究の成果が表れていた大会でした。

準優勝の札幌北陽は、1-1-2-1のゾーンプレスと1-1-3のゾーンディフェンスを武器の一つとして良く鍛え上げられたチームでした。能力ある三名の選手を中心に展開されるオフェンスは、自分たちのモードに入ると爆発的な威力を発揮し、観衆を引きつけます。札幌地区での中央中との激戦を制し、札幌1位になったことが全中への道を拓いたことに大きく繋がりました。

北陽率いる山田先生も大変な勉強家です。過去に三度、北海道三位を経験し、後一步のところまで全中へ行けなかった。しかしながら、ここで諦めず、いろいろな指導者から貪欲に勉強していました。数年前に、ドイツに一週間バスケット研修に行った仲間でもあります。次は、「全道優勝して全国へ行くぞ!」ときっと思っていることでしょう。

準決勝で緑園に惜敗した札幌中央は、ミニバス時代より注目を集めていた志村三兄弟を中心とした話題性抜群のチームでした。緑園のビックセンターを相手にするゴール下での無理な攻撃が気になりました。あの辺がもう少し整理されていたら…。全中枠が3チーム

あればよかったのにとおぼせる、北海道にとってはもったいないチームでした。

しかし、今大会もTV取材のカメラが入り中学バスケット界を盛り上げた功績は大きなものでした。ガッツあるルーズボール、ファイト溢れる表情、声、見本となる選手達でした。

女子優勝チーム札幌清田は、確率の高い3ポイントと固いマンツーマンディフェンスを武器とし、決勝戦では見事な逆転勝利を収め優勝しました。相手にしてみれば、わかっているけど止められない3ポイントといったところでしょうか？普通の感覚のディフェンスでは、止めることは困難でしょう。打つタイミング、距離もかなり遠く、今までのチームとは展開するバスケットがちょっと違います。清田の点数配分、シュートチャートを見れば打つ位置がかなり限定されます（実は、私のチームが札幌地区の全道決めであったのでかなり研究させていただきました）インサイドに気を取られることなくポイントとなる外枠の選手をしっかりと抑える、それが巧みなパスを遮断することになります。

相手のリズムを狂わせる対戦チームがほしかったところです。3ポイントが注目されがちですが、対戦チームにとっては清田のディフェンスを攻略するのは大変でした。終始マンツーマンディフェンスで、絶妙なタイミングでプレッシャーを強め、何よりポストヘルプディフェンスはすばらしいものでした。決勝戦では、エース④をファウルトラブルで下げざるを得ない状況にありながらも、困難を打開した力は、ここぞという集中力が備わっていたからであり、日頃の指導のあり方が生きた賜であると感じました。

準優勝の北星女子は、決勝戦終盤の内容が悔やまれます。ほぼ優勝を手中に入れていただけに無念でしょう。下級生が多く出ているチームの苦しさでしょうか？さまざまな場面を設定し、状況を把握したプレイ選択の練習が全国までには若いチームだけに必要かと思えます。伝統である脚力は、受け継がれ、それができなければ全国では通用しないということを知ったうえでのチーム作り。指導者の皆さんは、多くのことを名将白川部先生に学ぶべきでしょう。

負けたとはいえ、旭川神居東、帯広第一、札幌新川西、函館汐見など下級生が多く残る好チームが頑張り、来年の動向も占うことができた大会でありました。来年も好試合が展開されることでしょう、本当に楽しみです。（人ごとみたいに綴っている自分が寂しい限りです）

大会を観戦し、全道中体連では選手マナー・ベンチマナーについては向上していると感じました。清々しさを感じるチームを多く見ました。全地区で、これからもマナーについての指導を強化していただきたいと思えます。逆に、札幌地区でも感じるのですが、保護者の乱暴な言葉やコーチの指示と違うことを言う言葉が気になります。保護者に遠慮というものなくなってきました。コーチがやりにくさを感じていることに気づいてほしいものです。若い指導者は言いづらいことかもしれませんが、保護者指導が必要な時代かもしれません。残念なことです。

選手のためにトレーナーを配置しているチームが多くなってきたことは、嬉しいことです。日頃からの、ボディチェック、ボディケア、メンタルチェックも技術指導と同様大変重要です。トレーナーが活躍している姿も目についた大会でした。

審判員の方も、初日の午前中は別会場で研修を深め、1ON1のスペースをよりよい位置で捉えるよう研鑽されていました。私も久しぶりに審判員で参加させていただきましたが、生徒のために、正しい判定を仲間で常に確認しあっている姿勢やその雰囲気、服装にも気を遣い、判定以外の面でも向上していると感じました。

判定の判定で気になったことは、オフェンスのボールの保持位置が悪く、手を出したときに鳴ってしまう。保持位置が悪ければ当然ディフェンスは手を出さずでしょう、オフェンス技術が未熟なのです。プレイが終了している（オフェンスが倒れながらもなんとかパスを出した後など）のにもかかわらず、その後のディフェンスファールやトラベリングをとっている場面などをみるとプレイヤーの気持ちの理解は？とってしまいます。

しかし、数年前より、ムダな笛がなくなってきてプレイしやすくなってきています。ディフェンス不利な判定が少なくなってきています。指導者との見解の一致を目指した審判委員会の努力が表れてきていると思います。笛を吹く本人のバスケット感の問題でもあるのですが、どの時点からこのプレイのストーリーが始まっているかを感じ取っていただければ、その現象の瞬間を見ての判定にならず、よりマッチした笛になるのではないかと感じました。審判員の皆様方、お疲れ様でした。

今大会も選手・コーチの皆さんの戦いぶりから多くの感動を与えてくれました。運営していただいた先生方の仕事ぶり、チームワークの良さ、補助役員の中学生の皆さんの振る舞いにも感動をいただきました。一つの大会から多方面での人づくりができることを改めて実感できました。

最後に、あの場に立ちたい、全国に行きたいと思っている指導者の皆さん、これからもバスケットボール・子ども達を愛し、「信じて精進すれば報われる」ことを忘れずお互い頑張りましょう！

次は、あなたの番です！！

HBA（北海道バスケットボール協会）指導者育成専門委員会